

Q&A コーナー

Q. 福岡教区の最優先課題は司祭、修道者の召命の促進ですが、何をしたらいいのでしょうか。

A. 教区の最優先課題が「司祭、修道者の召命の促進」というテーマはぜひぶん浸透していると思います。教区報でもこのテーマはよく取り扱われていますし、いろんな集いでもよく話題になります。松永司教が教区長のときも毎年教区の「課題」が発表されていましたが、今年のテーマほど教区内に広まっている課題はなかったと思います。

とはいえ、実際のところ何をしたらいいのかよくわからないというのが実情ではないでしょうか。何をしたらいいのか：まず出てくるのが「祈り」をすることです。イエスさまも「働き人を送ってくださるよう遣わす方に祈りなさい」と言っておられるのですから。

何回かに分けて皆さんと一緒にこの課題について考えて

みたいと思います。

司祭、修道者の召命が減ったのは祈りが足りない、という説があります。よく聞くことです。しかし、祈れば、または祈りの数を増やしたり、時間を増やしたり、機会を増やしたりすれば、召命は祈りの量に応じて増えるのでしょうか。そうではないと思います。なぜなら、イエスさまご自身が祈りについて次のように教えておられるからです。イエスさまは祈りの内容、祈り方をはっきりと教えてくださいました。祈りについての教えはマタイ福音書の山上の説教、第6章にはっきりと示されています。

祈り方。異邦人のようにくどくどとのべてはならない。

異邦人は言葉数が多ければ聞き入れられると思い込んでいます。かれらのまねをしてはならない、と。天の父はわたしたちが願うより先に何が必要であるかをご存知です、と。

祈りの内容。イエスは弟子たちに次のように祈りなさいと、「主の祈り」を教えてくださいました。まず、神の国とその義を求めなさい、と。

まず、父である神が大切にされ、神のお望みがこの地上に実現しますように、と。

この地に神の国のために働く人がほしい。これは神の望みに違いありません。だから、わたしたちも、その神の望みが実現するようにと祈ります。ここをこめて、強く願います。言葉数を増やしたり、くどくどと言うのではなく、思いを込めて静かに祈ります。父である神さまのお望みが実現しますように、と。

すると聞こえてきませんか。働き人とはほかの誰でもない、あなたなのです、と。祈ると気づきませんか。司祭、修道者の召命のためにあなたにできることは何ですか、という神からのあなたへの問いかけが。祈るということは、神に何かをしてくださいと願うことよりも、神がわたしに願っていることに気づくことではないでしょうか。わたしたちは多くの場合、神に頼んでいる。でも、神がわたしに頼

んでいることにはあまり気づいていない。祈ればその結果として「気づき」があり、それを実行することによってのみ、神の望みは実現していくのです。「かれらのまねをしてはならない」というのは一生懸命祈っているつもりでわたしたちへの警告ではないでしょうか。他の宗教団体と同じうになつてしまわないように。「祈りが足りない」とまだいいですか？

(行橋教会・山元眞神父)